



人口減少の加速

浅野 純次

(経済倶楽部理事長)

▼国立社会保障・人口問題研究所が発表した50年後の日本の姿はまことに厳しいものでした。人口は3割も減って8674万人になり、しかも少子化と長寿化が二重に作用して65歳以上が人口全体の40%を占めるといいます。これを報じる新聞のトーンは世界的にみてこれほどの老大国はないと言わんばかりで、年金も介護も大変だと灰色一色でした。

▼疑問に思ったのは65歳以下と以上に分ける理由は何かです。再雇用の線引きが65歳というのでしょうか、50年後は一般的に75歳まで働いている時代かもしれない

い。70歳でも75歳でも仕事の種類はいかようにもつくりだせるでしょう。力仕事以外ならどうにでも知識や経験が活かせる。知識集約型の産業構造へシフトし、ソフトパワー立国を目指す日本を積極的につくりだしていくうえでも、「15～64歳(の労働人口年齢)も4400万人へほぼ半減する」などという予測で話(つまり記事)を終わらせたくないものです。

▼経済学者が盛んに言う話に「経済の見通しはなかなか当たらないが、確実な予測が一つだけある。それは人口動態予測で、これは間違いなく当たる」というのがあります。とはいえこれも短期では正しくても、長期になればなるほど誤差の範囲は広がるはずで

▼今回の予測では「50年後の合計特殊出生率は1・35である」というのですが、これから50年間の社会経済情勢いかにと無関係に出生率は上下に大きく変動しないという保証があるのか。保育施設の充実度、結婚や出産への動機付け、家庭に対する人々の考え方、将

来への不安度など、50年前に今を予測できなかったと同様、50年後の出生率を予測するのは至難でしょう。

▼人口予測でもうひとつ当たらない要因として移民があります。アメリカの人口は現在の3億強から40年間で1億3000万人も増えると予想されていますが、最大の理由は移民で、メキシコ、中国、フィリピン、インド、キューバの順に多いとか。ITでアメリカが輝いているのは、ヒスパニック系、アジア系の移民のおかげというのがリーダーたちの共通認識であり、アメリカ経済の成長も移民によるところ大でしょう。日本も50年といわず、看護・介護やIT、ソフト化で移民に頼らざるをえない時代になるのではないかと。すれば人口予測もおのずと変わってくるはずで、予測には十分な幅をもたせ、その最適値へ向けて努力していつてこそ、予測は生きてくるのではないかと。

▼話は変わりますが、出生率が低ければ元気がない国になるかという、そうとも限らないようで、現に出

生率が低いのに元気そうなのはいくつもあります。たとえばロシア1・4、ドイツ1・3(日本と同じ)、韓国1・2、シンガポール1・2、台湾1・0といった具合で、要は政治の姿なのでしょう。先に希望が持てるかどうかが決定的に重要です。

▼まとめると、高齢者や女性もつと働ける社会、若者が安心して結婚でき就業できる社会、移民を受け入れる社会、の三点が言いたいことです。ただし、日本がすんなり長寿社会になっていくかどうかについては大いに疑問があります。確かに明治大正昭和(戦前)生まれの人は頑健で長命ですが、世代が下がるほど食の乱れから早死にする可能性が増しているようでもある。沖縄の長寿に変化が生じ始めたのはその前兆ではないかと。すると、高齢化は案外どこかで頭を打ってしまうかもしれない。ただし、そうなる人口減はさらに進みますから、三つの対策がいよいよ重要性を増すのではないかと。まったくやることだらけですね。